

創造空間・高田工務店

稲城市押立870-3
042-377-5359

ハイブリッドソーラーハウスって何？

高田工務店主催のエコロジー建築見学ツアー



創造空間 高田工務店

稲城市の創造空間・高田工務店が提案する「ハイブリッドソーラーハウス」。名前はハイカラだが、実際の住み心地はどうか。ということ。去る2月2日、16日に実際にハイブリッドソーラーハウスにお住まいの方、建設中の方のお宅を訪問する見学ツアーが催された。20名近くの人が参加し、マイクロバスに乗って稲城市、府中市にある住宅を見学して廻った。

■だからハイブリッドソーラーハウスって何さ？

ハイブリッドソーラーハウスの仕組みを、ごく大雑把に説明すると、屋根に設置したパネルによって、太陽熱を利用して温めた液体を床下と給湯用のタンクに循環させ、家全体を一年中24時間快適な室温を保とう、というものだ。日照の少ない冬場はガスなどを補助熱源として利用する。だから「ハイブリッド」。加えて高田工務店では、無垢の木や漆喰などを利用した呼吸する素材と、吹き抜けなど風通しのよい間取りとを

組み合わせることによって、このシステムの良さを最大限に活かしている。太陽熱利用というと、太陽熱温水器と太陽電池が思い浮かぶが、前者は給湯にしか使えず、後者は太陽電池パネルがまだまだ高価なうえに、エネルギーを電気に変えると7割近くのエネルギーが失われてしまうので、実は「オール電化」はエコロジーでもエコノミーでもない。そこで前者の良さを活かしつつ、家全体を一年中快適な温度に保つことで、エアコンなどの利用時間を大幅に減らすことができ、結果的にエコロジーかつ快適な暮らしができるというわけだ。

■暮らしってみて実感する快適さ

最初に伺った府中市のO邸は、暮らし始めて1年ぐらいい家の中にお邪魔すると、まず外気との温度の違いに気づく。ポカポカというほどではないが、暑すぎず寒すぎないちょうどいい温度。取材した日はかなり寒い日だったが、暖房等は一切使っていないという。この冬はほんの何日か、

それも数時間程度しか暖房を使っていないとか。驚きなのは、床、壁などどこを触っても冷たくないことだ。

庭に向かっているリビングダイニングとそれに続く和室が全部吹き抜けになっており、大きな窓から光が降り注ぎ、開放感のある間取りとともに、家全体を温める構造になっている。「ソーラーハウスには元から興味があつて、それこそモデルハウスも十数軒見て回りました」というOさん、「最初はつい熱源がないことに不安を感じちゃうんだけど(笑)、慣れてくると、結露はしないし、快適さを実感します」。またふんだんに使われた無垢の木は、家の匂いを吸ってくれることは予想しなかったうれし副作用だという。Oさんは2匹の犬を家の中で飼っているが、匂いが自然に吸収されるようだ、という。

参加者もみなその快適さに驚き、次々と具体的な質問などに会話が弾む。キッチンではOさんの奥さんとソーラーハウスとは直接関係ないコンロの魚焼きレンジ談義で大いに盛り上がり。

次に伺ったのは、稲城市に現在建設中のHさんのお宅。できてからでは見ることができない床下の蓄熱装置の様子や、現場の大工さんとの信頼関係の大切さを見学。

「夫婦の意見の違いを摺り合わせ、その度に高田さんは何度も何度もプランを練り直して出してくる。その信頼感が一番だね」とHさん。もともとご主人の生家だった場所に新築するわが家に、稲城の原風景を織り込みたいという。前の家であつていた欄間を新しい家でも使ってもらうのだから。今は仮住まいで、帰宅すると部屋が寒いのを痛感するというHさんの奥さんは「もう少しの辛抱ね」と完成を心待ちにしている。

今回のツアーを企画した高田工務店の高田良晃さんは、ご自身も化学物質過敏症に悩み、また若い頃北欧の建築を学ぶ中で、向こうの環境意識の高さに衝撃を受けたという。そうして住む人に

とつても自然環境にとつても快適な住まいを探索し続けた結果、辿り着いたのがローテクゆえにシンプルで丈夫、しかも省エネ効果の高いエコロジー建築だ。ご自身の自宅も最近ソーラーシステムを導入してリフォームした。参加者のひとりKさんは、「今、食品の安全のことがいろいろ言われて、加工品はできるだけ食べないようになっています。でも食べ物を選ぶけど、空気は選べない。ご自身が化学物質過敏症という高田さんのお話を伺って、ものすごく共感しました」と語った。

高田工務店ではこうしたツアーやセミナーを定期的開催している。

